

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	兵庫県三原郡三原町立三原中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	16	30
生徒数	170	195	172	3	540	

研究の概要

1. 研究主題

- ・少人数授業を通して学習の意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。
- ・効果的な学習形態と教材の開発を進める。
- ・安全な指導と一人ひとりに行き届いた効率のよい授業の推進を図る。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・2年生・英語
生徒の理解度や意欲に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・2,3年生・技術
当該教科に関する研究実績があり、成果の確認が容易であるため。

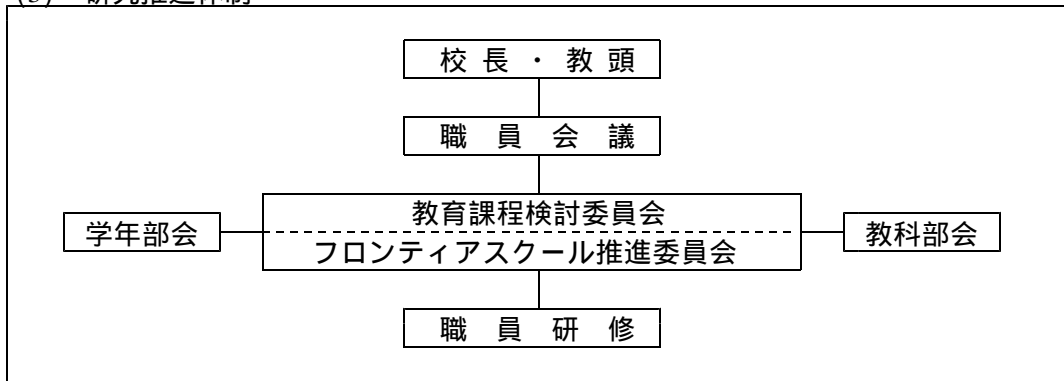
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 少人数授業を通して学習の意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。 研究の見通し(仮説) 少人数で授業を行うことによって、学習密度を上げ、自己の定着度を確かめる時間を多く確保することによって生徒の意欲が高まり、結果として、学力低下をふせぎ、基礎・基本の定着につながる。
	研究の内容・方法 1学級を2つの学習集団に分割して授業を行うことによって、生徒個々の学習内容の定着度を知るとともに学習意欲の向上が見られたかどうかを確認する。

平成15年度	テーマ 少人数授業を通して学習の意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。 効果的な学習形態と教材の開発を進める。 研究の見通し 少人数授業を行うことによって、学習密度を上げ、自己の定着度を確かめる時間を多く確保することによって、生徒の意欲が高まる。 学習の目的によって効果的な学習形態を工夫することによって、学習の効率が上がり、基礎・基本の定着につながる。 生徒にとって興味深い教材で学習することによって学習意欲が高まる。
	研究の内容・方法 1学級を2学習集団に分割して授業を行うことによって、生徒個々の学習内容の定着度を知るとともに学習意欲の向上が図られたかどうかを確認する。 学習形態の工夫によって学習効率の検証を行うとともに、生徒が興味深く主体的に取り組める教材開発に取り組む。

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業を通して学習の意欲を高め、基礎・基本の定着を図る。 ・学習意欲を高めるための効果的な学習集団や学習形態を工夫し、個人にとって負担の少ない学習環境づくりを進める。 ・評価基準の適正化を推進する。 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人にとって単に活動や発表の場が増える学習形態が必ずしも快適な学習環境の場であるとはいえない。一人ひとりにとって快適な少人数授業における学習環境を工夫し、保障することにより、学習意欲が高まり、学習効果が上がる。 ・評価基準の適正化を図りながら、評価規準についても検討し、具体的な項目や観点について規準を示すことにより評価の客観性・普遍性が高められる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学級を2学習集団等に分割して授業を行うことにより、生徒個々の確実な学習内容の定着を図り、学習意欲の向上につなげる。 ・学習内容や教材により、効果的な学習集団や学習形態を工夫することで、心地よい学習環境づくりを行うことにより学習意欲の向上が図られたかどうかを確認する。 ・より具体的な活動例や観点を多く取りあげ、それによって評価を行い、その後見直しをする作業をくり返しなが、客観性の高い評価規準を確立させる。
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料に関わる基礎・基本が徹底され、学習の効率化が図れた。 ・基礎・基本の反復練習時間が保障され、発表時間も確保できた。 ・個に応じた指導の機会が増えたことにより、学習内容の定着度が確認しやすくなった。 ・多様なコミュニケーション活動が展開できた。 ・観察法、質問法、面接法、点検法等を利用して、目標・指導内容・評価を一貫して捉える活動を数多く準備できた。 ・観点別評価基準表を作成し、それに基づいて評価を実施した。 ・教師のが目がよく行き届き、安全に作業ができ、細かいアドバイスをする時間も確保できた。 ・個人の活動の場が増え、技術習得など豊かな学習経験につながった。
--

- ・アンケート結果で、「どちらかといえば好き」と「好き」を合わせて少人数授業を肯定的に捉えた生徒が昨年に比べ若干増加し（7割程度を示し）たことから、少人数授業の成果に対する手応えを感じている生徒がやや増えていることが伺えた。
- ・少人数授業に直接関わる教師が増えたため、打合せの機会が多くなり、教材研究が深まり、結果として教師の資質向上につながった。

2. 今後の課題

- ・単純な二分割の少人数授業ではなく、場面や学習内容により、効果的な学習集団や学習形態を工夫したり、一人ひとりにとって負担の少ない学習環境の設定にも配慮する。
- ・基礎・基本の確実な定着を図るための効果的な教材の開発や指導方法の工夫に引き続き取り組む。
- ・目標に準拠した評価の実施にあたって、評価基準の適正化を推進し、評価規準についても検討する。
- ・少人数授業に直接関わる教師が増えたことにより、打合せのための時間調整が困難を窮めた。次年度は、同一学年の少人数授業に関わる教師は2名が望ましい。
- ・少人数授業の専用教室の確保と掲示物・展示物などで学習環境づくりを工夫する。
- ・アンケート結果で、少人数授業よりも学級単位の授業の方がよいと答えた生徒が昨年同様12%程度いるのは、少人数授業では発表機会が増えることで精神的な負担を感じる生徒が少ないことを示している。受動的な授業を好む生徒にとっては、グループワークや教え合い学習などのように個人を集団に戻すような学習形態を取り入れたり、大集団に戻すなどの工夫も必要である。

学力把握のための学校としての取組

（英語科）

- ・定期テスト
 - 目的：総合的な知識・理解
 - 内容：ペーパーテスト、リスニングテストを実施
 - 時期：年5回（各学期に2回、3学期のみ1回）
- ・音読テスト
 - 目的：表現の能力（話すこと）、理解の能力（読むこと）
 - 内容：個々に教科書の読むページを指示し、音読
 - 時期：各レッスン終了時、学期に1度ALTの前で実施
- ・スピーキングテスト
 - 目的：理解の能力（聞くこと）、表現の能力（話すこと）
 - 内容：既習の文型を使い、個々に英語で質問し、それに解答
 - 時期：各レッスン終了時
- ・教科書本文暗唱コンテスト
 - 目的：表現の能力（話すこと）
 - 内容：生徒たちの前に立って暗唱
 - 時期：年1回（2学期）
- ・スピーチコンテスト
 - 目的：コミュニケーションへの関心・意欲・態度、言語や文化についての知識・理解
 - 内容：生徒たちの前に立ってスピーチ
 - 時期：年1回（2学期）

- ・ノート指導
 - 目的：書くこと（表現の能力）
 - 内容：授業ごとに課題を与え、添削・評価
 - 時期：各レッスン毎
- （技術・家庭科）
- ・定期テスト
 - 目的：知識・理解・思考・判断
 - 内容：ペーパーテスト
 - 時期：年3回（各学期に1回）
- ・実技テスト
 - 目的：技能・表現・関心・意欲・態度
 - 内容：はんだ付けテスト、ミシンの糸通し、まつり縫い、包丁の使い方等
 - 時期：各単元毎
- ・作品審査
 - 目的：表現・技能
 - 内容：各単元での作品、夏休み作品展の作品
 - 時期：各単元毎、2学期始め

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 平成15年度淡路地区学力向上フロンティア事業研修会において研究発表を行った。
 - 日時：平成15年12月1日（月）13：00～
 - 場所：一宮町ふるさとセンター
 - 対象：淡路地区の全中学校が参加
- 2 兵庫県の「基礎・基本の確実な習得を図る研究協議会委員」として、学習状況調査問題作成部会や研究協議会において、自校の研究実績や指導経験を通して積極的に係わり、研究推進に貢献している。
- 3 平成15年度淡路地区学力向上フロンティア事業実践研究まとめとして各校に配布予定である。
- 4 平成15年度よりフロンティア事業の指定校となった島内の新規校に対して継続校としての立場から、研究実践に基づく資料や研究成果・課題などの資料提供やアドバイスを行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	